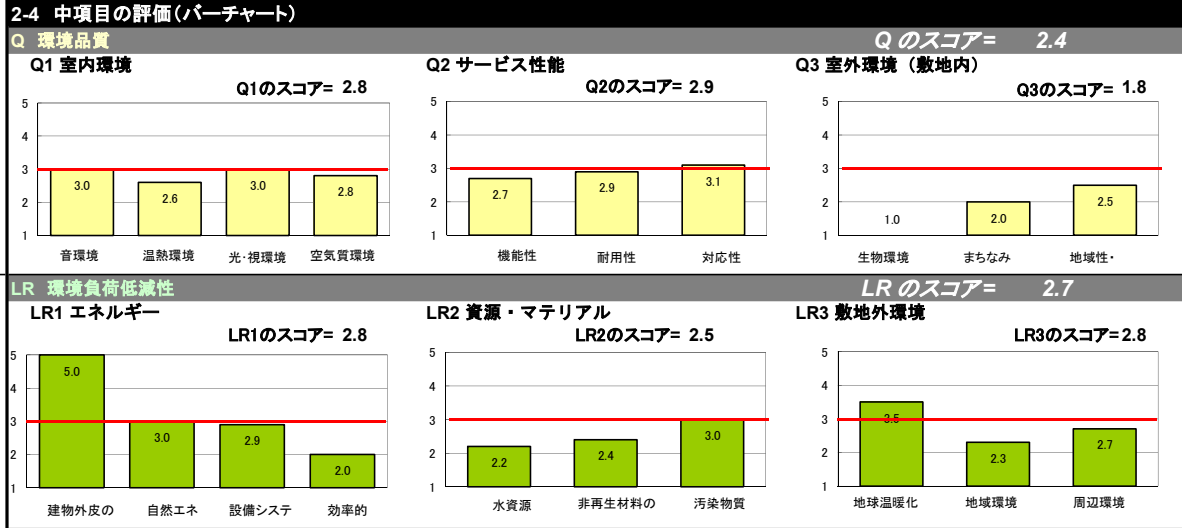
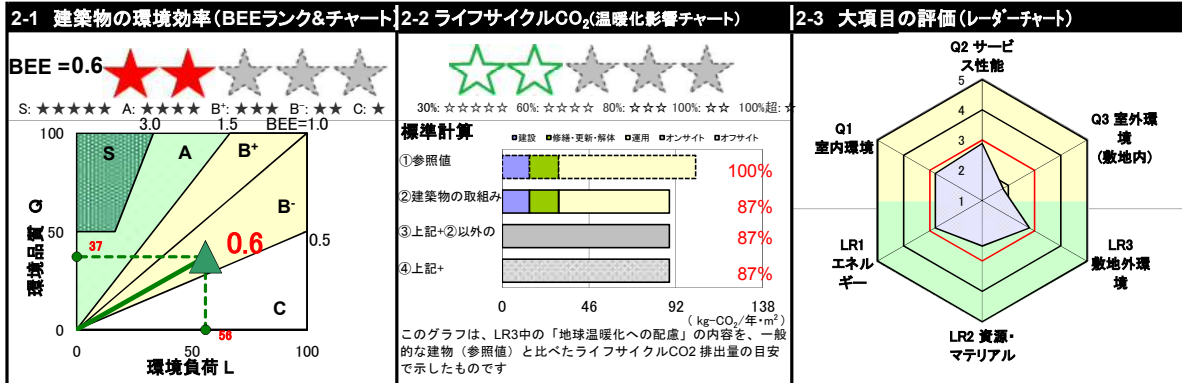


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)ハモコ・ジャパン石巻工場新築工	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県豊橋市石巻本町狭間田70番	構造	S造
用途地域	市街化調整区域(指定なし)・指定な	平均居住人員	50 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年7月 予定	評価の実施日	2017年12月26日
敷地面積	8,611 m ²	作成者	山村 利之
建築面積	2,594 m ²	確認日	2017年12月28日
延床面積	2,922 m ²	確認者	山村 利之



3 重点項目

①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.5	1.0
	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) 0.0 % 建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) 0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用
2.6	1.0
	<外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$





スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用建物全体・共用部(廊下・宿泊) 住居・宿泊部分					
配座項目	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄				全体		2.4 2.8	
	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.15			3.0	
1.2 遮音				3.0	0.40				
1 開口部遮音性能				3.0	0.60				
2 界壁遮音性能				3.0	0.40				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-				
1.3 吸音				3.0	0.20				
2 温熱環境									
2.1 室温制御				2.6	0.35			2.6	
1 室温				3.0	0.50				
2 外皮性能				3.0	0.38				
3 ソーン別制御性				3.0	0.25				
2.2 湿度制御				3.0	0.38				
2.3 空調方式				1.0	0.20				
				3.0	0.30				
3 光・視環境									
3.1 昼光利用				3.0	0.25			3.0	
1 昼光率		昼光率5.4		4.2	0.30				
2 方位別開口				5.0	0.60				
3 昼光利用設備				-	-				
3.2 グレア対策				3.0	0.40				
1 昼光制御				3.0	0.30				
3.3 照度				3.0	1.00				
3.4 照明制御				1.0	0.15				
				3.0	0.25				
4 空気環境									
4.1 発生源対策				2.8	0.25			2.8	
1 化学汚染物質				3.0	0.50				
4.2 換気				3.0	1.00				
1 換気量				3.0	0.30				
2 自然換気性能				3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33				
4.3 運用管理				2.0	0.20				
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50				
2 喫煙の制御				1.0	0.50				
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ				2.7	0.40			2.7	
1 広さ・収納性				3.0	0.40				
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33				
3 バリアフリー計画	独自			3.0	0.33				
1.2 心理性・快適性				2.0	0.30				
1 広さ感・景観(天井高)				3.0	0.33				
2 リフレッシュスペース				2.0	0.33				
3 内装計画				1.0	0.33				
1.3 維持管理				3.0	0.30				
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50				
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震・制震・制振				2.9	0.31			2.9	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.48				
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.80				
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.33				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②		3.0	0.23				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23				
2.4 信頼性				2.8	0.19				
1 空調・換気設備				3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20				
3 電気設備				3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20				
5 通信・情報設備				3.0	0.20				

3 対応性・更新性				3.1	0.29				3.1
3.1 空間のゆとり				3.4	0.31				
1 階高のゆとり				3.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.2	4.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31				
3.3 設備の更新性				3.0	0.38				
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	0.17				
3 電気配線の更新性				3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.38				1.8
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		2.0	0.40				2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									2.7
LR1 エネルギー				-	0.40				2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm0.69	5.0	0.07				5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.26				3.0
3 設備システムの高効率化				2.9	0.40				2.9
4 効率的運用				2.0	0.27				2.0
集合住宅以外の評価				2.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				1.0	0.50				
集合住宅の評価				-	-				
4.1 モニタリング				-	-				
4.2 運用管理体制				-	-				
LR2 資源・マテリアル				-	0.30				2.5
1 水資源保護				2.2	0.15				2.2
1.1 節水				1.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				2.4	0.63				2.4
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自		1.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	0.24				
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68				
1 消火剤				-	-				
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50				
3 冷媒				3.0	0.50				
LR3 敷地外環境				-	0.30				2.8
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物に対して87%	3.5	0.33				3.5
2 地域環境への配慮				2.3	0.33				2.3
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33				2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音		独自		3.0	0.50				
2 振動		独自		3.0	0.50				
3 悪臭				-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				
1 風害の抑制				-	-				
2 砂塵の抑制				-	-				
3 日照障害の抑制				3.0	1.00				
3.3 光害の抑制				1.6	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策				1.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(株)ハモコ・ジャパン石巻工場新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				2.6
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (株)ハモコ・ジャパン石巻工

計画上の配慮事項	
総合	シンプルなプランとすることで機能的な大空間をつくり、効率よく作業が行えるようにした。
Q1 室内環境	建築材料は☆☆☆☆を採用した。 事務所2Fの開口部は庇の外側にルーバーを設けることで日射に考慮した
Q2 サービス性能	ゆとりある天井高、階高とした。
Q3 室外環境(敷地内)	死角を作らないように、見通しをよくして防犯性に配慮した。
LR1 エネルギー	事務所部分の断熱性に考慮し、照明にはLEDを使用することで省エネに配慮した。
LR2 資源・マテリアル	ハロン、フロンの使用無し
LR3 敷地外環境	適切な量の駐車スペースを確保した。
その他	